経済教育ネットワーク
Network for Economic Education

大阪部会（第 77）回・東京部会（第 126 回）合同部会報告

日　時:	2021 年 10 月 9 日（土）15:00 － 17：00
場　所:	web 上の会議
参加者：	20名

【内容要旨】

1　丹松美代志先生（おおさか学びの会）より、「厠・トイレ考から中学公民の持続可能な社会づくりの授業を構想する」の提案がありました。

・これは、中学公民の大項目D「よりよい社会を目指して」の探究学習を、高校公民科の大項目C「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」に接続することを念頭においた、全13時間（10次）の学習プログラムの紹介です。

・授業プランは以下の通りです。

1次：厠・トイレの歴史で、12世紀平安時代の「餓鬼草紙」や16世紀の「洛中洛外屏風図」から読み取れる内容を考察させる。

2次：江戸時代にはいってし尿が売買の対象となった図から読み取れる内容を考察させる。

3次：し尿が火薬の材料の硝石の原料になったことを紹介して、し尿と火薬の関係を考察させる。

4次：近代になってからの河川・海洋への投棄から、下水とし尿処理の関係を考察させる。

5次：シンガポールの研究者ジャック・シムの著書から、世界のトイレ事情とSDGsの関係やバイオマストイレなど新しい試みの紹介を踏まえて、世界のトイレ事情を考察させる。

6次：ここまでの学習を踏まえて、グループ活動で、SDGsの観点からテーマを設定して探究活動に入る。

7次：設定したテーマに関する調査活動を行う。

8次：中間プレゼンテーションの準備を行う。

9次：プレゼンを実施し、その評価を行う。

10次：3600字で活動のまとめ（卒業論文）を書く。

・質疑や感想では、高校への接続をどう考えているのか、トイレだけでは無く、下水システムやそれに関する起業家のへの注目が欲しいなどの要望がでました。また、授業プランの前半5次までは、生徒が探究するのでは無く、教員が情報提供することになるが、その場合の指導者と資料の扱いをどう位置付けるかという質問や、小学校での下水道の調べ学習での様子などが紹介されました。

・丹松先生からは、1次から探究させたいが、まずは絵図の気づきなど教員の提供する資料から考えさせるのが現実的ではないか、下水道や起業家に関しても注目しているので探究のテーマとして誘導してもよいとの回答がありました。

2　大倉泰裕先生（千葉県立松戸向陽高等学校）から、「評価についてもう一度考え直そう」の報告がありました。

・メルマガ10月号に掲載された、同じタイトルの論考の具体的な事例も含めた問題提起です。

・大倉先生は、評価について考える前に、まずは生徒の実態（何が必要か、何が分かっていないか、なぜ分かっていないか）を踏まえること、生徒がこれからの時代に生きる力が不足しているのは、考える能力を身につけ

させる方法を教えていないからであることを、教える側が自覚することが大事だと述べられます。

・その上で、授業を見直すには、個別的・具体的な知識や原理、概念、法則はしっかり教えた上で、それからを活用する場面を作ることが必要であると述べられます。

・事例として、国民主権と立憲主義の事例をあげ、思考力・判断力・表現力が不足している今の生徒たちにそれらが身につくような授業を行ったら、そこではじめて評価が登場することを確認したいと述べられます。

・では、評価はいつ、どのようにするか。多くの生徒を教える場合、定期考査の場で、思考力などを評価できるような問題を作成るのが現実的であるとして、その場合、条件としては授業で扱わなかった事例や資料を出して評価問題を作ることが必要であると強調されました。

・具体例として、大倉先生が実際に作成、実施した定期考査問題と解答例を資料として提示された。

・また、評価を考えるために、考査問題の公開と検討をおこなったらどうかとの提案もされました。

・質疑や感想では、実際の評価として、中学でやっているようにABCのBを標準としてそこから評価するようにするのか、テストでは思考問題は配点で調整するのか、試験は復習の意味が大きいのではないだろうかなどが出されました。

・大倉先生からは、採点の時には知識問題は1点で青、試行問題は2点以上の配点をして赤で採点していること、高校で評価を形式化させないためには各学校での教務内規を変える必要があること、知識問題に関しては「傾向と対策」のプリントを出して準備をさせ、思考問題に取組ませるようにしていること、試行問題のグラフや写真、資料はカラー印刷ができると生徒の取組むインセンティブを上げることができるなどの回答がありました。

3　大塚雅之先生（大阪府立三国丘高等学校）から「金融デジタル化の学習での行動経済学の使い方」の授業報告がありました。

・「冬の経済教室」での発表の準備のための報告で、以下の内容の授業実践です。

・時間は1時間、テーマは金融の技術革新と人間の行動特性ということで、伝統経済学の知見をベースとしている教科書の記述では説明できない人間行動を行動経済学の知見を踏まえて生徒に考察させるねらいの授業です。報告中には映像による授業紹介もありました。

・授業の流れは以下の通りです。

・まず、クレジットカードの仕組みを問い、次に、フィンテックサギが増えている実態と現実のサギメールを紹介しながら考えさせる、さらに、大手のキャッシュレス企業がキャンペーンを行う理由を問い、そのうえで、最後通牒ゲームを行わせ、人間が合理的行動だけで動くわけでないことを自覚させる。最後に、ナッジを使って、キャッシュレス決済に絡む事態への対応を、ナッジアプリを作ることで考えさせるという内容です。

・質疑、感想では、ナッジアプリとはどんなもので、生徒はどう回答したのか、キャッシュレスのポイント制の扱いなどマイナス面の強調が過ぎるのではなどが出されました。

・大塚先生からは、生徒の発表事例の紹介、情報産業のプラス面も加えて多面的に考察させたいとの回答がありました。

・篠原代表から、夏の大竹先生の講演に対する現在時点での学校現場のリアルな応答が今回の大塚報告であり、冬の経済教室での報告になる予定であること、行動経済学を使った授業はどこで教えたら最も教育効果が上がるか、現在検討中であるとのコメントがありました。

経済教育ネットワーク
Network for Economic Education

・新井からは、大竹先生の『行動経済学の使い方』『経済学のセンスを磨く』などの中にある事例が、教科書のどこに位置付けられるかを研究中とのコメントも付け加えられました。

（記録と文責：新井）

◯テスト問題（新テストなど）	◯中学	◯高校	◯指導案	□新聞教材（NIE）

次回開催予定：東京部会　2021年12月18日（土）15時00分～17時00分　慶應義塾大学＋オンライン（Zoom）
大阪部会　2022年1月29日（土）15時00分～17時00分　同志社大学大阪サテライト＋オンライン（Zoom）
議題　教材の提案とその検討